

【する／しない】 第40回

今夏は、「命にかかわる危険な暑さ」「酷暑」ともいわれる。小中の教室へのクーラー設置が急ピッチで進んでいる。「意思決定において本当に重要なのは、……どんな選択肢があり、それぞれの選択肢がどんな価値をもたらしてくれるのかを正しく認識すること」(文献①、54頁)ではあるが、クーラー設置は二酸化炭素を排出するので、巨視的には地球温暖化を進めることになる。クーラー設置を選択するのであれば、他の何かを(やめる)総合的な視点が必要である。

新学習指導要領は、はじめから「教育内容の削減はしない」原則をとり、これまでの「精選」「厳選」といったカリキュラム・マネジメントの基本作業を回避している。このままでは児童生徒、教師の負担が心配だ。カリキュラム・マネジメントとしても、「断捨離」のような考え方が必要である。「断×捨≠離」だそうだ(文献②、11頁)。それがなぜ捨てられないのか、自分との関係で(執着)を探究す



る問題(47頁)も含まれている。

ミクロ経済学では、機会費用という考え方がある。「あきらめた選択肢の中でもっとも高い価値をもたらす選択肢の価値」(①、29頁)だそうだ。何かするとき、それによって選択されなかったことを想像する発想だ。悪い面からいえば、何かさせないためにあることをやらせる事態があるかもしれない。長時間宿題をやること、保護者が行事に長時間参画することなどは、何か別の価値あることをさせないようにしているのかもしれない。

実は文献①は、機会費用の考え方が重要ではないとして、冒頭の考え方に「後戻り」している。単純に、よいと思われることを遂行する発想は乗り越えなければならぬ。(研究部・加藤聡一)

参考文献

- ①市野泰和「機会費用は重要な概念か?」『甲南経済学論集』58(1) 2017年
<https://ci.nii.ac.jp/naid/120006364864>
- ②やましたひでこ監修『見てわかる、断捨離 決定版』マガジンハウス、2017年。